

○ 本校の概要

☆学校規模：生徒数571名、学級数18学級(15・特支3) 教員数32名 ☆教育目標：(1)心身ともに健康な生徒 (2)自ら学び、向上する生徒 (3)心豊かで、思いやりのある生徒
☆目指す学校像：(1)すべての生徒にとって安心・安全なで居心地のよい学校、居場所がある学校 (2)生徒が主体的に活動する学校 (3)文武両道の学校
☆学校経営の基本方針：(1)知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 (2)活気と感動にあふれた学校 (3)安全・安心で居心地の良い学校、居場所のある学校 (4)生徒が誇りをもち、保護者、地域に信頼される学校

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	学校評価【生徒・保護者アンケート】において「将来に関する情報を十分に提供してくれる」と回答した割合	4:80%以上	＜取組＞ ・外国人講師の授業の実施、活用 ・OJT推進週間を年2回設け、授業力の向上、教員の育成。 ・生徒が主体的に取り組むためのICT活用の推進 ＜改善策＞ ・サーキットトレーニング導入により体力の向上 ・あいさつ運動の活性化によるコミュニケーション能力の育成。	A	3	・コロナ禍が続いた1年でしたが、学校に行くとなみなさんの元気な声が多く聞こえて、前年より少し嬉しい気持ちになりました。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3		3:60%以上		B	2	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3		[3]保護者60%生徒86%		C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4		2:50%以上		D		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2		1:50%未満				
		すべての教科で主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、生徒個人の考えを広げたり、他と意見交換ができるなどコミュニケーション能力を向上させる。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2	学校評価【生徒保護者アンケート】で「通知表の評価をその後の学習に活かしている」と回答した割合	4:80%以上	＜取組＞ ・家庭学習の成果の集約と表彰。 ・英検、漢検の校内実施による学習意欲の向上。 ・学習補助員による平日、授業と放課後の補習教室実施。長期休業日中の補充教室、登校日の設定。 ＜改善策＞ ・家庭学習の質の向上を目指した研修の実施 ・校内研究授業の質の向上。	A	3	・文化祭を見学させていただき、職場体験の報告もパソコンを駆使して分かりやすく、一生懸命さが伝わってくる内容で、楽しく拝見させていただきました。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2		3:60%以上		B	2	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3		[2.3]保護者57%生徒69%		C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3						
		各種検定試験(英語・漢字・数学等)や各種コンクール応募の経験を通して自尊心を高めることで、学習意欲と学力の向上につなげる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	2		1:50%未満		D		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	学校評価【生徒保護者アンケート】で「廊下等様々な場面で元氣よくあいさつをしている」と回答した割合	4:80%以上	＜取組＞ ・小中一貫教育のルールづくり。あいさつ運動の継続。 ・すべての教員がローテーションで担当する道徳授業 ・生徒会主体による校則の見直しと改定 ・生活委員会による遅刻指導。 ＜改善策＞ ・区内に拡大された関係機関との連携による生徒の居場所づくり、登校対策・WEBQ-Uのをより有効に活用するための研修 ・いじめ防止多作の強化と見直し ・委員会活動の活性化により生徒の自主的な取り組みの推進と規範意識の醸成	A	4	・修学旅行も元氣に楽しんでいる最高の笑顔を見せていただきました。6組の作品もすばらしく、じっくり見させていただきました。文化祭が開催できたのも、先生方の御苦労が実った事で、すばらしいことと思い、心よりありがとうございます。生徒の方々には最高の「豊かな心の育成」になったと確信しております。 ・今年度は、花の手入れをしているとあいさつだけではなく、何人かの生徒は寄ってきて、花の話を聞きに来てくれました。とても嬉しかったです。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3		3:60%以上		B	1	
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		[3]保護者72%生徒76%		C		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3		1:50%未満		D		
		自ら進んであいさつを行う生徒指導を通して、個の自己肯定感を向上させるとともに生徒相互の豊かな心を育むよう、全教職員で取り組む。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3						
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	学校評価【生徒保護者アンケート】で「早寝・早起き・朝ごはんなどの生活習慣が身に付いている」と回答した割合	4:80%以上	＜取組＞ ・食と主睡眠を礎とする基本的生活習慣の確立。 ・部活動の推進 ・委員会活動による啓発。 ＜改善策＞ ・委員会、部活動の更なる活発化	A	5	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3		3:60%以上		B		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2		2:50%以上		C		
		体育の授業、委員会活動、生徒会活動など様々な活動を通じて、体力を向上させる取り組みを行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	2		1:50%未満		D		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	学校評価【生徒保護者アンケート】で「学校に登校するのが楽しく、学校が好きな様子である」と回答した割合	4:80%以上	＜取組＞ ・授業公開の回数拡大。 ・授業向上のためのOJT週間実施。 ・校内支援委員会による支援を要する生徒への対応協議、情報共有。 ＜改善策＞ ・関係機関とのより強化した校内支援体制。	A	3	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行なった。 3:学期に1回(年間3回)以上行なった。 2:年度間に1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3		3:60%以上		B	2	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3		[3]保護者72%生徒76%		C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行なった。 3:学期に2～3回行なった。 2:学期1回以上行なった。 1:実施しなかった。	4		1:50%未満		D		
		個別に支援を要する生徒や不登校生徒に対しての情報共有を確実に行うとともに、個に応じた指導・対策を講じる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3						
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	学校評価【生徒保護者アンケート】で「学校だよるホームページ等で積極的に情報を発信している」と回答した割合	4:80%以上	＜取組＞ ・学校HPの活用による開かれた学校づくり。 ・動画配信による学校行事紹介。 ・PTA、スクールサポーター、支援地域本部を活用した校内環境づくりと働き方改革。 ＜改善策＞ ・学校HPの充実。・地域行事やボランティア活動への積極的な参加 ・PTAとの連携	A	3	・今後も地域の協力者として子ども達を見守ってまいります。よろしく願っています。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3		3:60%以上		B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行なった。 3:学期1回以上行なった。 2:年1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3		[3]保護者67%		C		
		PTA、地域人材と連携し、学校の活性化を図るとともにボランティア、SDGsなどの教育活動への啓発、興味付けにつなげる。	4:学期に2～3回行なった。 3:学期1回以上行なった。 2:年1回以上行なった。 1:実施しなかった。	3		1:50%以下		D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。